

あこし塾長の

子親のやる気

○○23



小学生のお父さまとの学習相談で、「息子が突然学校に行けなくなりました。理由はすぐには分からなかつたのですが、どうも下足に泥を入れられたよう。初めは何クソと耐えていたようですが、数日たって犯人が分かってしまった。

それが親友だったのでショックだったようでした」と話されました。学校に行けない理由が親にも分かってきたところ、担任の女性教諭から自宅に電話が入ったそうです。「〇〇君は今日もお休みですが風邪でしょうか?」とお父さんは、初めてのうちは理由を濁していましたが、「風邪ですよね」と理由を押されたので、「理由はいじめです」

第2章・ゆとり教育世代の子育て

と伝えたそうです。

ところが、相手の反応があまり的に射ていないので、普段から気になっていた学級運営について「児童会に

は児童会長があるのに、学級会に「長」が存在しないのは子どもたちの代表がないということでは?」と話題を変え尋ねてみたそ

うです。すると担任の先生は「学校の代表は校長、クラスの代表は私です」ときっぱり答

えました。お父さんは違和感を覚え、これまで以上の対話は難しい

かたがイイ」という価値観

と失望したそうです。

そして私は、「ゆとり教育になって、運動

会でも順位をつけないと聞きました。競争が

ダメなんじゃなく、一人

様や均質がダメ。一人

つらさ乗り越え自我育つ

える中で生まれ、たくましく育つものではないでしょうか。

いつまでも親が子に寄り添うのではなく、遠くで見守り、意思の疎通がうまくいかない感じたり悩んだりする」とがコミュニケーションの最も優れた訓練だと肝に銘じ、「子どもの世界にほっておくことが大切なではないでしょうか。子育てはいつも正念場です。

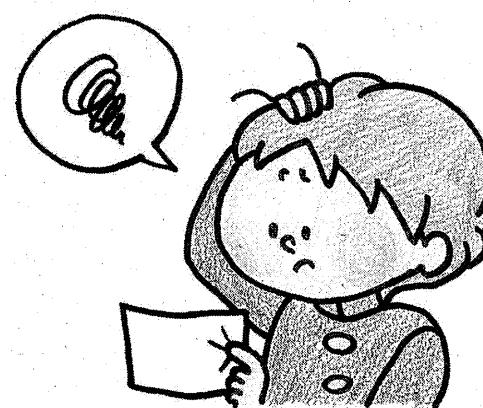
(畠山篤=志学塾塾長)

成長に寄
定時制
記録映

は、実は学校よりも家庭の場に少なくなっているかもしません。

集団での競い合いよりも、個別の手厚いサポートを重視した子育てが好まれています。

しかし、夏休みのラ合いで、社会は工員の役割を比べ認められることで、社会は工員の無邪氣な「いたずら」が、悪質な「いじめ」に発展しないよう、学校の指導者に期待しての発言だったのに、先生には伝わらなかったようです。お父さんは「競争はダメで平等がイイ」という価値観



by yoriko

教 育

て1948年、国際捕鯨委員会(IWC)をつくりました。IWCは、どんなクジラが、どこに、どれだけいるかを調査。

その結果を基に、捕つてもよいクジラの数などを規制してきました。環境を守る

に向けて、議長らが、捕鯨国と反捕鯨国両方の言ふことを取り入れた提案をしました。調査ではな

く、商売としての捕鯨を

事実上、認める一方で、

特に反対が強い南極海での捕鯨の頭数を、うんと減らそうというのです。

南極海の調査捕鯨で船に運ばれたクジラ

(日本鯨類研究所提供)

